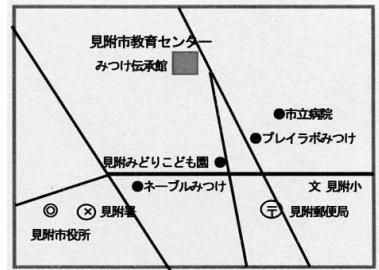


見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町 2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和7年12月16日 NO.9

『風雪の中を登校する子どもたち』

小さな成長、大きな価値

見附市小学校校長会 会長 後藤 正美



私が校長1年目だった学校に、いわゆる「キレる子」がいました。スイッチが入ると全校中に聞こえる声で叫び暴れ続け、教室どころか校舎敷地外の1km先まで飛び出していく子でした。マラソン練習中にもキレて、そのまま逃亡することもありました。怒りのアウトプットがあまりにも激しいので、前年度担任も保護者自身もどう対処するか頭を悩ませていました。

当然ですが、この子は24時間怒りっぱなしではありません。落ち着けば素敵な部分が見えてきます。新しい担任は、怒りが落ち着くまでの時間の変化や、落ち着いたら怒りの理由を話すことができるプラス行動に注目します。決して感情は否定せず、行動を振り返ることができた事実を繰り返し認めました。校舎外へ飛び出す行動については、冷静なときに校長室で一緒にルールを約束しました。もちろん簡単には改善しないのですが、1年前と比較すると、怒りの継続時間が短くなっていることに気付きます。明らかな成長です。そして年度末には、教室は飛び出しても、校舎を飛び出すことはなくなりました。各種行事の際には、この子の目指す姿と本番までの作戦を丁寧にシミュレーションしました。ここでも、1年前より成長している姿をイメージし、褒める材料にします。これは一つの事例ですが、この子に対しては、大人の見方や心構えが大きな影響を与えたように思います。

子供たちは、自分を愛してくれる大人を見分ける純粋な目をもっています。信頼を得るまでは確かに大変です。しかし、こうした子は「大変な子」ではなく、すべての教職員が「気に入れしていく子」です。担任だけに任せることなく、職員全員で行動変容を認める声掛けが必要です。大人の目ではちょっとしたことでも、「小さな変化や成長には、大きな価値がある」のです。子供のライバルは、一年前の自分自身ですね。

行事等の準備を教師主導で慌ただしく進める日が続ければ、子供の言動は荒れていきます。慌ただしいとは「心が荒れる」と書きます。子供たちは荒れた言動を通して、様々なサインを出しているのです。年度のまとめである3学期。小さな変化や成長を見逃さず、子供の内面を想像しながら、温かな声掛けをしていきましょう。

卷頭写真に寄せて 「紅葉の美しさは、落葉にも…」

◇12月2日の天気予報で「明日は寒波の襲来で日本海側は雪、新潟県の多い所では70cm。」等と伝えていた。私の通勤路にある新潟小学校は、子どもたちが常にきちんと整列をして集団登校している。「その様子(田園地帯を歩く)は、絵になる美しさで、卷頭写真で紹介をしたい。」とずっと思ってきた。四季それぞれ素晴らしいが、天気予報を見ていたら「雪原の中を登校する子どもたちをぜひ撮影したい。」の気持ちになり、3日は早朝から田んぼの中で、本所方面から登校する子どもたちを待った。ところが、かなり待ったが、子どもたちは誰もやって来ない。(後で聞いたら、前日に、学校から「明朝は保護者が送って来てほしい。」と連絡があったとのこと。)諦めて職場に来たら、眼下を見附小学校の子どもたちが登校して行った。

(卷頭写真) 風雪に飛ばされないよう下を向き、懸命に歩く子どもたちに、

「ご苦労様。気をつけてね。」と見送っていたら、ふと思ったことがある。

銀杏の紅葉

◇それは、今年はいつまでも残暑が続くと思っていたら、10月半ばより秋らしい気候になり、11月には例年以上に、紅葉が美しいものになった。特に、銀杏の濃い黄色は何とも言えない色合いになり感動だった。(上写真)長い残暑と急な寒さの芸術作品である。また、銀杏の落葉は少しずつ色が抜け、レモン色になり地面に模様を作っていた。この自然美は紅葉よりも美しく見えた。私たちの日常は、前や上を見て生活を送りがちだが、時々一息ついて、足元を見つめてみると、普段と違うことが見えるのではないかと思う。

◇学期末である。子どもたちの評価もそうではないだろうか。テストや作品の成績はもちろん大事だが、違う観点から子どもたち一人ひとりを見てあげたら、違う良さが見えてくると思う。誰でも良さはある。「子どもは褒められて伸びる。」が私の経験である。

コラム 「サンタのおじいさんが見ているよ」

◇師がくの2回目も終盤になり、音楽授業を参観することが多くなった。

12月8日のA小学校1年生もそうだった。開始前に音楽室に行つたが、既にとなりのトトロの「さんぽ」を歌いながら、子どもたちが教室内を笑顔で行進していた。終わると「大きな古時計」「ふるさと」を歌い、続いて「ジングルベル」を鈴やカスタネット等で合奏した後「きよしこの夜」を歌いながら合奏した。この時、担任のB先生が私に視線を向け、『サンタのおじいさんが見ているよ。クリスマスの静かな夜を…聞いてもらおうよ。』と言った。その後「かえるの合唱」を鍵盤ハーモニカで合奏し、最後は、B先生がバッハの「G線上のアリア」をピアノ演奏したのを鑑賞し、カードに感想を書いて終えた。子どもたちがどの曲も実に楽しそうにやっていたのが印象的であり、それを生むB先生のピアノの演奏力にも驚いた。



◇「GIGA研修：4時から夢塾」(3頁掲載)のC小学校のD先生の「5年算数：割合」の授業も凄かった。子ども自身が単元を復習する問題を作り、解き合い深め合う授業を参観した。タブレット(オクリンク+)を上手く使いこなし、真剣に学び合っていた。D先生の指導力にも驚かされた。



◇二つとも参観した1時間の感想であるが、子どもたちが真剣に取り組み、充実した表情で学んでいた。授業は、教え込みの時間もある。子どもたちが自分たちで学びを作り上げる時間もあるが、充実した授業は、子どもたち同士の協力や教え合い等の中で、良好な人間関係も育んでいる。学校教育の中核をなすのは、授業である。子どもたちが真剣に学ぶ授業実践が行えるように、研鑽に励んでほしいものである。(二)



4時から夢塾 授業に学び、「オクリンク+をやってみる」

第14回夢塾を11月20日(木)に、名木野小学校の石川晃隆先生から、「GIGA研修：5年算数 割合(1) オクリンク+で単元を復習する」の授業公開と、ミニ講座で指導を頂いた。石川先生は単元を通して、授業の様子や本時の振り返り、板書を毎時間記録して、オクリンクに蓄積し、それを基に、子どもたちが単元を復習する問題を作り、学級全員で単元を復習する学習を積み上げてきた。本時は、その授業であった。

1. 授業の様子 本時：「割合(1) オクリンク+で単元を復習する」

○問題作成の意図を確認し、問題作成する。

- 1. クラスのための問題
- 2. 確かめをしっかりと
- ・問題づくりを通して、算数のレベルアップを目指そう。

◎みんなでレベルアップしよう…班のメンバーと協力して問題を作成

○問題を解く(そのポイント)

- 1. レベルアップを目指そう
- 2. 時間を大切に

○振り返る(そのポイント)

- 1. 友だちとの関わりを書く
- 2. レベルアップできたところと理由

2. ミニ講座 「オクリンク+で単元を復習する」：成果と課題

○成果… 1. 子どもたちの実態を把握できる。

2. 振り返りを見直すことができたり、振り返りを共有することができる。

3. 話し合う視点や行うことが明確になり、協働的な学びに繋がる。

4. 自分の苦手なところ、得意なところを繰り返し練習できる。(個別最適な学び)

5. 問題を作り、友だちに解いてもらうことで、達成感を感じることができる。

○課題… 1. 問題の正確性が不明確。 2. 時間がかかるてしまう。

「実際にオクリンク+を使ってみよう」 (下5枚の写真)

- ・子どもたちと同じ問題を考える。
- ・図工の鑑賞を学ぶ。

＜参加者の声＞ ○高学年になると、こんなにタブレット(オクリンク+)を使いこなして、学習することができるのかと驚いた。

○当たり前に子どもたちは、オクリンク+を自分のために使おうとしていた。問題を作る、工夫しようと話し合う姿が素晴らしいだった。

○明日からできそうな提案をいただいた。問題の作成や解き合う活動は理解が深まり、良い活動だと思った。図工の鑑賞も自分でもやってみたいと思った。

○子どもがそれぞれの振り返りから、それを克服できるように、問題を作成するという活動の設定がとても魅力的！自分のレベルに合わせて問題を解くのが、主体的に学習に取り組める活動の設定だと思った。全員が意欲的に活動していたこと。これがすごい！

○学びやその振り返りが蓄積されるので、単元を通して子どもの成長や困り感・つまずきがわかると感じた。互いに解き合うことに価値があり、子ども同士の繋がりが作れる。

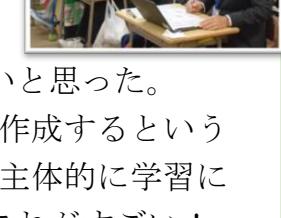
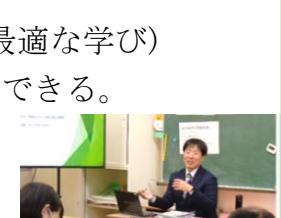
○「みんなでレベルアップしよう。」という目標を、子どもたちと共有したことで、この授業で学級経営の姿が見られた。(そのような石川先生の声かけが随所でうかがえた。)

参加者も「オクリンク+をやってみる」



石川 晃隆 先生

(下写真：授業の様子)



先進校視察報告 「第51回全日本工学研究協議会全国大会 茨城つくば大会」への参加

11月14日(金) 15日(土)の両日、表題大会の授業公開校である つくば市立竹園東小学校を視察した。視察のねらいは「複線型授業の実施のためのICTの効果的な利活用について、研究をするためである。」



今町小：齋藤一平教諭

1 視察校の特色

つくば市立竹園東小学校は、1977年(昭和52年)に、日本で初めて教育活動にコンピュータを導入した学校で、ICT教育に力を入れている学校である。

2 研修について

(1)研修内容 6年社会科：「歴史人物インタビュー」の授業参観、協議会への参加

(2)授業参観で学んだこと

子どもたちが「スクールAI」というツールを用いて、質問をしながら探究学習を進めていた。例えば、AIの「歴史人物インタビュー」機能を使い、杉田玄白に見立てたAIと対話し、質問に応じて自分の学習を進めていた。AIが児童の“個別の問い合わせ”に応じて、伴走者となることで学習の自律性が高まり、多様な学びが同時並行で進む環境が実現していた。また、AIだけでなく、教科書や資料集、図書館の書籍等も使用ができ、デジタルとアナログを組み合わせた授業が展開されていた。授業の終末では、Excelのスプレッドシートに子どもたちが振り返りを記入し、子ども同士がお互いの学びを確認できるようになっていた。

(3)研修を通して学んだこと

複線型授業では、児童が多様な情報源を扱う機会が増えるため、「引用した情報」と「自分の考え」を区別して表現する力が大切だと感じた。調べた内容をそのまま使うのではなく、自分の意見・感想と整理して書く習慣を、小学校の早い段階から丁寧に育てていく必要があると感じた。また、端末を使って学習を進める場合、インターネット上の情報やAIの提示した情報に、誤った内容や曖昧な記述も含まれる。「本当に正しい情報か」を確認するファクトチェックの姿勢を育てるこも重要であると感じた。私が行っている普段の授業でも、子どもたちが教科書の内容や自分が読んだ本で分かった内容を書く場面が多々あるが、引用の丸写しではなく、自分の思いを付け加えることや引用した内容と自分の考えを分けること等を意識して指導していきたい。

さらに、竹園東小学校では、子どもがタブレットを適切に利用しており、学習と関係のないサイトを閲覧する等の姿が見られなかった。その背景には、子どもたち自身が学習計画を立てて見通しをもったり、情報委員会の子どもたちが校内のタブレット利用についてのルールづくりに参画したりする等、主体的な関わりがあるからだと考えられる。端末の活用は教師の指導だけでなく、子ども自身がどのように使うべきかを考え、責任をもつ仕組みづくりが重要であると感じた。

3 今後に向けて

今回の研修で得た学びを踏まえ、子どもたちが自律的に学び合える複線型授業を目指して、ICTの利活用の在り方を今後も研究し、日々の実践に生かしていきたい。

12月

科学教育部



塩化アンモニウムの樹枝状結晶

(この時期だからでしょうか…なんだか雪を
かぶったクリスマスツリーに見えませんか？)

【1月、2月の研修案内】

1	単元別研修会 【小4 ものの温まり方】	1月 16日(金) 15:40~16:40	単元の進め方のポイントを紹介し、 熱の伝わり方に関する教材の作成や 実習をします。
2	第4回 理科主任会	2月 20日(金) 15:40~16:40	令和7年度の活動報告と来年度の活 動予定について意見交換を行いま す。

※研修会の申込について、新たな参加希望がありましたら、見附市教育センター科学教育部まで電話またはメールで申し込みをしてください。

【11月の研修の様子の紹介】

単元別研修会 小5 「もののとけ方」

11月28日(金)に実施した単元別研修会 小5 「もののとけ方」では、この単元の流れや実験のポイントを確認し、この単元での困難さを共有し、ものが溶けるとはどういうことかを考えました。参加者からは「今まで自分が行っていた実験だけではなく、ザラメ、氷砂糖、角砂糖等でも実験してみて、それぞれの溶かす物のよさを改めて確認することができた。今後の授業改善に生かしていきたい。」「牛乳のブラウン運動について、はじめて実験して貴重な経験になった。」

「粒子概念については、学年を越えて、粒の単位で指導していくことの大切さを知った。子どもたちの「溶ける」ということの考え方について、お話を伺い、私も学習のはじめには、「とけて見えなくなる」ということについて話し合わせてみたい。」という感想を頂きました。



氷砂糖のシュリーレン現象



牛乳のブラウン運動

科学の公園

いきいきわくわく科学賞 2025（第61回新潟県児童生徒科学研究発表会）

見附市児童生徒科学研究発表会で11作品が推薦され、「いきいきわくわく科学賞2025」に応募しました。
次の通りに入賞しましたので、ご紹介します。（敬称略）

県教育委員会教育長賞

＜中学校物理・化学の部＞

ふしぎ！押すと固まる液体
～片栗粉と水のダイラタンシー現象に迫る～

西中学校

2年

土田 輝

優秀賞

＜小学校高学年の部＞

ライトトラップに集まる昆虫を調べる Part2！！

今町小学校

6年

種部 橙里
村山 飛龍

＜中学校物理・化学の部＞

身近な物で電池を作る

南中学校

2年

山本 衡

＜中学校生物・地学の部＞

身近な素材からの紙作り Part2
～野菜の皮から紙を作る～

見附中学校

2年

小林 栄太

奨励賞

＜小学校中学年の部＞

まさるな！！塩水～色水シリーズ② 虹色の食塩水を作るには？～

見附小学校

4年

宇野 衣紀

＜小学校高学年の部＞

塩の結晶を取り出そう パート2	見附小学校	5年	桶谷 悅人
ハーブの力を調べよう!!	葛巻小学校	5年	刈谷 晴
クーラーボックスから取り出した飲み物を冷たいままにするためには？	見附小学校	5年	武石 佳桜
果物・野菜は水に浮く？沈む？～皮のヒミツをさぐる～	上北谷小学校	6年	石川 草太
どの氷が一番早く溶けるのか～様々な液体で実験～	見附小学校	6年	小竹 咲希
洗剤で進む船	見附小学校	6年	倉田 咲

第4回理科主任会で各校に配布する「わたくしたちの科学研究 第61集 2025」の冊子や、過去の研冊子は教育センターに保管しております。来年度の科学研究に、ぜひご活用ください。